

「夢実現へチャレンジを」

室蘭・海星学院高で「世界一大きな授業」



教育の大切さについて考えた海星学院の「世界一大きな授業」

元青年海外協力隊員 出合さん講話

室蘭・海星学院高校(堺俊光校長)の全校生徒237人を対象に教育協力NGOネットワークが主催する「世界一大きな授業」が6日、同校で開かれた。元青年海外協力隊員でブルキナ

ファソを訪れ、野球指導に携わった出合太さん(ブルキナファソ野球を応援する会代表)が講師を務め、生徒たちは真剣に講話に耳を傾けていた。同授業は「すべての子どもたちに教育を」を合言葉に、世界100カ国以上で同時期に開催。教育の大切さについて考え、参加者の声を各国政府に届け、教育政策に反映するように働き掛ける。

同校では、世界には教育を受けられない子どもたちが多く事実を知り、教育を受けられることに感謝、誰もが教育を受けられるようにするなどを目的に5年前から参加している。

出合さんは「最初は遊びで野球をやっていた子どもたちがプロになりたいという目標を持った。どんな国でも人種でも選んだ夢を実現するチャンスはある」と生徒たちに夢に向かってチャレンジする大切さを説いた。

3年生の後藤颯人さんは「アフリカは貧しいというイメージで、野球をやるのは大変だと思っていたけれど、その中でプロを目指すチャレンジ精神や夢を諦めないことに感銘を受けた」と話した。(山田巧)